

UNESCO Cities of Design Subnetwork Annual Meeting

ASAHIKAWA, JAPAN

21-25 October
2024

REPORT



10月21日から25日にかけて、旭川市でユネスコデザイン都市会議が開催された。今回は21か国23のデザイン都市から48名の参加者が旭川を訪れ、創造的な未来の都市づくりとデザインの役割について活発な議論を交わした。会議は非公開だったが、オンライン参加も含め国内外のメンバーが集う絶好の機会に3つのミッションを掲げた。第一に、各国デザイン都市の参加者と直接集うことでしか得られない生きた情報交換や緊密な連携の構築を図る。第二に、未来を担う若い世代との交流を図るとともに多くの市民にデザイン都市旭川を知ってもらうことで、シビックプライドを醸成する。第三に、植樹やワークショップなどを通じて旭川の豊かな自然や産業、文化に五感で触れてもらう。

地球規模で加速する気候変動や社会課題に対して、異なる文化や価値観を持つデザイン都市が一堂に会することで、新しいアイデアや革新的なデザインを共有する場が生まれ、特に循環型社会や持続可能な都市づくりに向けた具体的な事例が議論された。また、今回は初来日の参加者も多く、旭川と日本の理解を深めていただくために、自然、食と文化、先住民文化(アイヌ)文化、地場産業などのテーマに沿ったプログラムを体験していただいた。

デザインのまち旭川

旭川市では1950年代からデザイン活動が始まり、1976年の旭川デザインシンポジウムをはじめ、数多くのデザインイベントが開催されてきた。1990年からは国際家具デザインコンペティション旭川(IFDA)が3年ごとに開かれている。1997年には旭川のデザインの方向性を示す「旭川市デザインビジョン」が発表された。2015年からは「あさひかわデザインウィーク」が毎年開催されている。

2019年10月、旭川市は長年のデザイン活動を背景に、ユネスコ創造都市ネットワークのデザイン分野で加盟認定を受けた。ユネスコ創造都市ネットワークは2004年に始まったプロジェクトで、創造性を核とした都市間の国際的な連携によって、地域産業の発展と都市の持続可能な開発を目指している。

現在、世界で350都市、日本には11の創造都市がある。創造都市には文学・映画・音楽・クラフト&フォークアート・デザイン・メディアアート・食文化の7分野があり、デザイン都市には世界の主要都市が多く含まれている。旭川市は名古屋市、神戸市に次いで国内で3番目のデザイン都市となり、地域資源を活用したデザインの力を通じて、国際的な交流と地域の発展を目指している。



デザイン都市会議

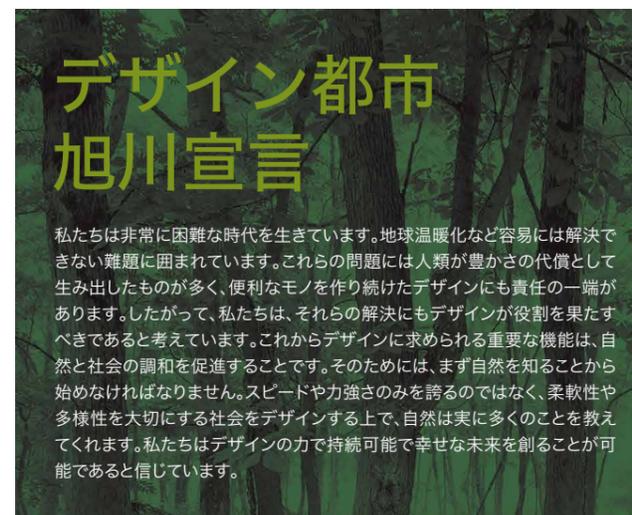
この会議の主な目的は、主催都市旭川を含む各都市を知り、デザイン都市としての活動や課題を互いに理解し合うことで連携を強化することである。初日には今津寛旭川市長の開会挨拶とともに、ユネスコ文化部コミュニケーション責任者デニス・バックス氏による祝賀メッセージが披露されて会議がスタートした。旭川をはじめとする各都市の出席者はそれぞれの活動や成功事例を分かりやすく説明して、お互いの連携強化を図った。

また会議期間中には4つの分科会(ビジネス、教育、ポリシー、ソーシャル)に分かれてデザインの可能性について議論した。

最終日に「デザイン都市旭川宣言」を採択し、自然との共生とデザインによる持続可能な未来の実現を明確化した。



シンディ・リー氏 アニー・マーズ氏
ユネスコデザイン都市コーディネーター



10月24日、旭川の草案どおり「デザイン都市旭川宣言」は、承認された。この宣言の主旨は、自然との共生をデザインによって実現するとともに、次世代の育成を図ることとした。市民が主体となるデザイン都市の推進と、今後の国際的連携と地域発展の基盤を築き、持続可能な未来への活動指針として位置づけられた。宣言は、会議の最終日に承認され、フェアウェルパーティーで発表。持続的で幸せな社会をデザインの力で実現することを誓い合った。

会議参加者と懇親を深める

オリエンテーション

10月21日、デザインギャラリーにおいて書家・本田蒼風氏による「縁」の書道パフォーマンスでオリエンテーションが始まった。近年、デザインの「つなげる力」が注目されている。縁は人と人との出会いの大切さを表す言葉であり、デザイン都市会議に相応しいスタートになった。次に渡辺直行副会長から、旭川会議の主旨についての説明があった。



交流会

旭川市内でデザイン都市会議参加者の交流を深めるための3つの交流会が開催された。21日の花月会館では琴や尺八の演奏が行われ、日本の伝統と文化を体験。22日のOMO7旭川の歓迎交流会では各都市の紹介や地域経済人との意見交換が活発に行われた。24日のアートホテル旭川でのフェアウェルパーティーでは旭川チカップニアイヌ民族文化保存会によるアイヌ舞踊が披露され、最後は参加者も踊りに加わり、アイヌ文化の魅力を共有した。地域と国際都市間の連携を深める重要な機会となった。



ユネスコ協会3都市会議

10月23日、OMO7旭川において、「ユネスコ協会3都市会議」を開催した。目的は、デザイン都市旭川会議に出席する3都市(神戸市、名古屋市、旭川市)代表者と民間ユネスコ活動推進団体である日本ユネスコ協会ならびに相対する地域ユネスコ協会による交流、取り組みの共有、ユネスコの理念を通じて新たな関係を構築することであった。会議は会場とオンラインによるハイブリッド形式で、参加者は59名、前半は各ユネスコ協会とUCCN都市の優良事例の共有。後半は「ユネスコ活動の魅力」についての意見交換がなされた。世界連盟に所属するユネスコ協会・クラブの活動は、次世代育成プログラムが多く、地域と国際が融合しており、対話を大切にしていることから、今後のUCCNとの協働が期待される。



旭川の森とクラフト、日本の文化を五感で体験する

ナラの苗木を植樹

10月21日、江丹別の森に向かい、ナラの苗木300本を植樹した。今回のテーマに沿って、自らの手で大地に木を植える体験を通じて五感で自然に触れ合ってもらうことが目的であった。長靴に履き替えスコップで固い山肌を掘って苗木を植える。思いのほか大変な作業であった。成木を見られるのは100年先であるにもかかわらず、参加者の笑顔が印象的であった。



旭川デザインセンター視察とスプーンづくり

10月22日、旭川デザインセンターでは、千歳市の風倒木を素材にしたスプーン制作ワークショップや、旭川家具の展示を視察した。旭川家具が地域資源を基盤にし、持続可能なデザインと産業の発展を国内外へ発信していることを体感する機会となった。



上川神社での朝食

10月23日、上川神社で、下國シェフによるハラルにも対応した朝食を堪能。残渣の有効活用がテーマで、煮込んだ野菜や肉の残りを使い、白米に合う副菜を提供し、非常に好評をいただいた。また、角田宮司より「いただきます」や「ごちそうさま」の言葉に込められた意味について説明いただき、日本の食文化に触れる機会も得た。朝食後は、宮司の講話を聴講し、華麗な巫女の舞を楽しむなど、日本の歴史と文化に触れていただいた。



大雪エリアの資源

10月24日、東川コース、美瑛コース、旭川市内コースに分かれて道北の自然を楽しんでいただいた。旭川市内コースは最初に近藤染工場で伝統的な染物の製造を見学し、その後は男山酒造を視察。参加者は旭川を代表する伝統的な製造業に興味深く見学した。



未来を担う若い世代との文化交流

北彩都から市役所庁舎まで散策

10月23日、地元の高校生および大学生による通訳ボランティアの協力を得て、北彩都ガーデンから旭川駅や買物公園を巡り、旭川市総合庁舎までを散策した。旭川駅までは大学生2名、高校生8名、旭川駅から旭川市総合庁舎までは高校生19名の通訳ボランティアが英語で旭川を案内した。参加者は生徒たちの熱心な説明に感銘を受けていた。学生にとっても貴重な機会となった。



ミニまちなかキャンパス

10月24日、学生・生徒数70名を含む総勢110名により「ミニまちなかキャンパス」がアートホテル旭川で開催された。創造都市認定の後、あさひかわデザインウィークの若手向けのイベントとして誕生した「まちなかキャンパス」の再現である。テーマは本番と同じ「デザイン」「創造都市」「SDGs」であり、デザイン都市会議の参加者のための開催となった。学生を中心に15のブース展示を行った。海外からの参加者に向けて学生たちは英語で説明を行い、見学者は熱心に発表に耳を傾け活発に質問していた。生徒たちの真摯な回答に若い層が創造都市プロジェクトに熱心に参加していることを理解してもらえた。終了後は出展者同士が相互に訪問し、意見交換を行った。英語でのプレゼンテーションが好評で、次世代の意識と熱意を示す場となった。「学生たちの真摯な説明が感動的だった」との声が寄せられた。



書道や茶道を通じて

10月21日から4日間、今回のコンセプトである次世代とのコミュニケーション、日本文化探訪を目的に、市内12校の高校生77名が参加して、書道や茶道を通じ、海外ゲストと国際文化交流を深めた。1日目と2日目は、OMO7旭川にて、高校生24名と顧問が延べ5時間、書道による参加者との交流を行った。毛筆体験、小色紙への漢字やカタカナでの揮毫で、列をなすほど好評だった。「コルトレイク」の色紙は同市の市長に届けられる。「デザイン都市 神戸」の色紙は神戸市のギャラリーに飾られる。後半は、3種の書体での半切紙への揮毫を見学。



3日目は、OMO7旭川で、裏千家、高校生14名、指導者が薄茶点前を披露。栗の練り切り菓子と薄茶を、白檀が香る会場で喫した。「和敬清寂」を体感。薄茶は初めての方が多かった。4日目は、アートホテル旭川にて、表千家、高校生15名、指導者が担当し、干菓子と薄茶を楽しむ「一座建立」を体感していただいた。「書道の線の美しさが印象的だった」「茶道で感じた静寂が忘れられない」といった感想が寄せられた。



文化交流参加校

●通訳(北彩都～買物公園ガイド)
旭川藤星高校、旭川明成高校、旭川西高校、旭川市立大学

●ミニまちなかキャンパス
旭川北高校、旭川農業高校、旭川明成高校、旭川工業高等専門学校、旭川市立大学、旭川市立大学短期大学部、旭川医科大学

●メッセージカード作成
旭川明成高校、旭川西高校

●書道
旭川龍谷高校、旭川藤星高校、旭川永嶺高校、旭川南高校、旭川西高校、旭川高等支援学校

●茶道(裏千家)
旭川藤星高校、旭川永嶺高校、旭川農業高校、旭川商業高校、旭川西高校

●茶道(表千家)
旭川工業高校、旭川明成高校、旭川東高校、旭川北高校、旭川南高校

公開イベントでデザインを身近に楽しむ

デザイン都市パネル展

10月18日から27日まで、旭川市総合庁舎前の広場で「デザイン都市パネル展」が開催され、ユネスコ創造都市ネットワークに加盟する28のデザイン都市の取り組みを紹介した。各都市の独自性やデザインを活用した地域発展の事例が並び、来場者からは「デザインが地域を変える力を実感した」「新しい視点で自分の街を考えるきっかけになった」という声があった。パネル展を見た各都市の参加者も互いの都市の取り組みについて感想を述べ合っていた。



トークセッション

10月22日、道新旭川政経文化懇話会と共催し、日本を代表する建築家の藤本壮介氏とイタリアの巨匠建築家のミケーレ・デ・ルッキ氏によるトークショーが開催された。テーマは「世界から見た旭川の未来と可能性」で、建築家の視点から旭川の自然、文化、持続可能な未来について語り合った。参加者からは「地域の魅力を再認識し持続可能な都市の在り方に刺激を受けた」などの感想が多数寄せられた。

23日は、旭川市チーフデザインプロデューサー石川俊祐氏とグッドデザイン賞審査委員長を務める齋藤精一氏によるトークショーが開かれた。テーマは「未来をつくるデザインの役割」で、デザインが地域や社会に与える影響や可能性について語り合った。「デザインが未来を変える力を実感」「旭川のビジョンに共感した」などのコメントが参加者から寄せられ、旭川が目指すデザイン都市としての方向性を発信する機会となった。



藤本壮介

ミケーレ・デ・ルッキ

石川俊祐

齋藤精一

藤本壮介×ミケーレ・デ・ルッキ インスタレーション

10月16日から27日まで旭川駅コンコースで、藤本壮介氏とミケーレ・デ・ルッキ氏によるインスタレーションが展示された。今年4月にミラノで披露した作品の特別版で、藤本氏の「ASAHIKAWA FOREST」とミケーレ氏の「LEAVEITBE」は、森をテーマに自然とデザインの融合を象徴していた。来場者の感動とともに、SNSでは「自然の力強さとデザインの美が共存している」といった感想が投稿された。



IFDA作品展

9月30日から旭川デザインセンターで、IFDA2024入賞作品展が開催された。38か国・地域から応募のあった655作品の中から選ばれた入賞5作品を展示し、旭川がデザイン都市として家具とデザインを結び役割を果たしていることを印象付けた。

また、10月10日から27日まで旭川駅東改札口前で、IFDA歴代の金賞受賞作品11点が展示された。30年以上にわたり旭川地域のデザインを牽引し続けてきた世界レベルの革新性と美しさが紹介された。



Designers from A to Z

10月27日まで、旭川駅ステーションギャラリーで椅子の研究者・織田憲嗣氏のコレクションから、20世紀を代表するデザイナーの頭文字AからZに沿った名作家具が展示され、注目を集めた。



The Four Seasons in Asahikawa, Japan

10月21日から25日まで、アッシュアトリウムにて展示された。旭川の四季を象徴するナナカマドなどの植物とアートフラワーを融合し、自然と文化の調和を表現した。繊細な花の配置や色使いが来場者の目を楽しませた。



市民参加型展示「あさひかわもよう」

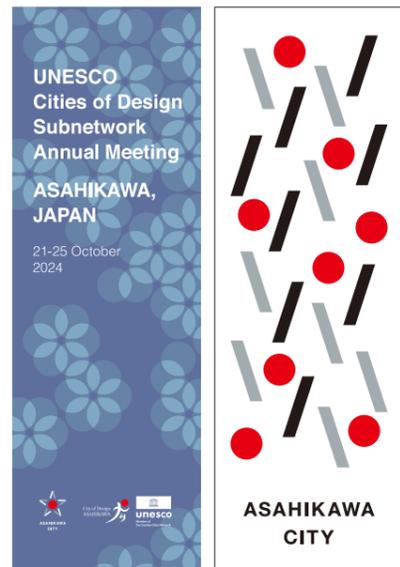
市民参加型インスタレーション「あさひかわもよう」が10月20日からフードテラスで展示された。旭川の自然や文化、希望を表現した作品は、市民の地域への愛着と創造性を育む機会となった。



デザインのまち巡り

10月22日から24日まで、地域住民を対象に「デザインのまち巡り」日帰りモニターバスツアーを実施した。異なる視点で「デザイン」を楽しむ企画である。22日は「スケッチの魔術師」小川けんいち氏とともに、身近なデザインを再発見。旭川市彫刻美術館や北彩都ガーデンを巡り、視覚的な感動を体験した。23日は家具職人・小助川泰介氏とともに木工企業を訪問し、木工技術の魅力を味わった。24日には「美食マガジンkutta」編集長・尾崎満範氏が案内する発酵ツアーにより、健康と美味しさをテーマに発酵食品の奥深さを学んだ。参加者から「新たな視点や地域の魅力を再確認した」と好評を得た。デザインを通じて参加者と地域がつながる貴重な機会であった。

Key Visuals



Supporters

Supporter

Special Thanks

--	--	--

2024UCCNデザイン都市旭川会議開催実行委員会

会長：旭川市長 今津 寛介
 旭川市・旭川商工会議所・あさひかわ創造都市推進協議会・公立大学法人旭川市立大学・
 一般社団法人旭川観光コンベンション協会・一般社団法人大雪カムイミンタラDMO・旭川シティホテル懇話会

このたびの2024UCCNデザイン都市旭川会議の開催に際し、48社様よりご協賛を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。
 あたたくいご支援、誠にありがとうございました。

